様式3　令和3年度新座市学校評価システム学校関係者評価シート　　No.1

学校名	新座市立第三中学校
実施日	令和4年1月17日

＜記入の仕方＞　○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。
○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質　問　項　目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、各教科において「授業の見える化」を図り、生徒の意識的に学ぶ姿勢を向上させるような取り組みを実践している。	A	昨年の本評価3.42から今年は3.41(－0.01)と横ばい。授業で「めあて」「課題」「まとめ」を掲示を使って必ずで提示し、「見通し」を持たせ「振り返り」を確実に行うことを授業の約束事とした。中間層～下位層の生徒に対して、タブレット端末を活用し効果的な授業が展開されている。	A	各教科等の工夫で、見通し～振り返りを必ず意識させ、学びの目標を明確にしながら授業を進めている。ICTの活用で学習資料の共有や帰宅後に授業の動画を見て復習できる環境を整備するなど、授業改善を進めている。
2	学校は、体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を適切に行っている。	A	昨年の本評価3.33から今年は3.41と+0.08。感染症拡大防止による制約下でも、体育祭を全校で実施し、合唱祭でも各学年の大きな成長を感じられた。生徒の興味・関心を生かし、ICTを活用した話し合い活動やミニティーチャー等の自主的・自発的な学習に取り組むことができた。	A	全校生徒を一堂に会しての体育祭や、学年をオンライン中継した合唱祭、実施できたスキー教室を始め、授業でも学年全体で課題を共有するなど感染対策やICT活用を十分に意識して体験的活動や課題解決型学習が進められている。話し合いや教え合いがあることが当たり前の学習環境となっている。
3	学校は、視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。	A	昨年の本評価3.47から今年は3.73と+0.26の大幅上昇となった。一人一台のタブレットが導入され、各教科でフル活用できた。担当者を中心に研修を進め、最低限の教材を全教職員が作成できる能力を獲得している。一定の生徒は教員よりも高いくらいの技量で端末を操作し、自主的に話し合い活動を展開できる。不登校生徒もオンライン授業を受ける体制が整っている。	A	ICT担当教諭を中心に、全教職員が最低限の技量を持っているのはすばらしい。タブレットを持ち帰り、自宅でも復習やあすの連絡を確認できる環境を構築しているなど、今の環境でできることをできる限り進めている。さらに先進的な取組になるよう研究を重ねてほしい。

評価項目「組織運営」

No.	質　問　項　目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者コメント
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	昨年の本評価3.47から今年は3.19と－0.28、A→Bとなった。学校教育目標具現化のため、組織的に学校経営を進めている。ICTの急速な展開や前年と大幅に変化した学校行事、教育課程の変更に伴って、校務分掌の偏りが発生している。さらに合理的なしくみを研究し、教職員の負担軽減を進めたい。	B	組織的な学校経営が遂行されている。新しい学びを推進するに当たっては、過渡期ともいえる状況で、校務分掌の見直しを常に進め、負担軽減を確実に実施してもらいたい。チーム学校として一人一人が三中教育を推進する大切な人財である。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	昨年の本評価3.60から今年は3.32と－0.28、A→Bとなった。学校評価の具体的記述を次年度に生かしたり、行事実施後のアンケート等で改善を図っている。自己評価シートは学校教育目標と連鎖した目標を立てて評価している。年度途中の変更にも柔軟に対応できる体制を整えていきたい。	B	学校評価、行事ごとの評価から具体的な改善点をよく分析し、よりよく改善しようとしている。教職員の自己評価シートを活用し、一人一人が当事者意識を持って教育活動を進めている。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	昨年の本評価3.35から今年は3.22と－0.13。危機管理マニュアルを年度当初に確認し、当事者意識を醸成するためマニュアルの回覧を実施している。警備の誤発報やカギの不明が増加したので、ヒヤリ・ハット事案を減少させ、事故防止・事故撲滅の意識を常に持つよう啓発していく。	B	危機管理マニュアルの確認は確実にしてもらいたい。引き続き、緊急事態に備えて迅速に対応できる体制を整えてほしい。訓練や施錠時の約束を徹底し、当事者意識を常に持ち続けるよう意識を高めてもらいたい。元気なあいさつが不審者対策には高い効果があるため、あいさつ指導を引き続き徹底してほしい。

評価項目「学力向上」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	昨年の本評価3.60から今年は3.54と−0.06。 授業四原則「姿勢・清潔・礼・整頓」を全学級で意識し、集中した取組ができている。学年ごとに生徒の自発的な授業改善の取組が展開され、よりよい学びを自分たちの手で実現しようという気運が高まっている。	A	学習ルールを毎年、毎学期、随時確認しながら規律ある中にも自由で闊達な授業を展開している。様々な取組を工夫してコロナ禍においても新たな学習のあり方を目指している。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	昨年の本評価3.33から今年は3.35と+0.02。 学習活動が制限される中、インプットとアウトプットのメリハリをつけ、できるだけ話し合い活動や協働型学習を取り入れる努力をしている。相手の考えを取り入れた上で自分の考えを構築し発信する授業を今後も実施していく。	B	思考力・判断力・表現力を高めるために、言葉遣いに注意しながら友人の考えから学んだり自分の考えを深める授業を展開している。タブレットを活用しての協働学習など、発言が苦手な生徒も積極的に参加できる状況である。すべての生徒を伸ばせるようさらに工夫してほしい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	昨年の本評価3.50から今年は3.46と−0.04。 生徒アンケート「授業の内容はよくわかる」昨年の3.12から3.27に上昇した。2学年の数学でティームティーチングによる少人数指導を実施するなど、配慮を要する生徒への丁寧な指導が一定の効果を発揮している。	A	少人数指導や合理的配慮への対応等、丁寧な指導をしている。授業の解説動画を家庭学習で見られるようにするなど、一定以上の努力をしている。さらに中間～下位層への効果的なアプローチを続けてほしい。
10	学校は、英語（英会話）の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成（国際理解教育の推進）に努めている。	B	昨年の本評価3.26から今年は3.24と−0.02。 外部とのオンライン授業は実施できなかったものの、1学年から毎時間ではないがオールイングリッシュでの授業を展開するなど、英語科教員を中心に英語にふれる教育活動を展開している。埼玉県学力学習状況調査の英語の「伸び」が県平均を大幅に上回っている。	A	前向きなコメントが多く、英語への興味・関心が高いことがうかがえる。伸びが県平均を大幅に上回っていることは、吸収力や向上心が高いことの現れである。英語に限らずグローバルな視点を持てる生徒の育成に期待している。

評価項目「豊かな心の育成」 No.2

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	昨年の本評価3.38から今年は3.30と−0.08。 教職員、生徒、保護者とも「三中のあいさつはよい」という高い評価となっている。一方で生徒アンケート「あいさつをしている」が昨年度3.67から3.61と減少しているなど、課題を自覚している生徒も少なくない。教員からはもちろん、生徒発信による自主的・自発的な考え・行動で、あいさつや言葉遣いを向上させていきたい。	B	来校者へのあいさつは非常に気持ちの良いものである。強制ではなく、心からのあいさつができていると感じる。生徒会中心に「あいさつバッジ」を全生徒、保護者・地域に配布し、地域を挙げてあいさつの向上に努めている。教職員からはもちろん、生徒が自主的に考え取り組んで、あいさつを向上させていってほしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	昨年の本評価3.48から今年は3.49と＋0.01。 いじめ調査では、「いじめはどの学校にも起こる」認識で早期発見、早期解決につなげている。当事者からの訴えもあるが、周囲の生徒が心配して発見に至る事案も多く、正義の目がある。不登校生徒数が依然として多く、感染不安も加わり欠席・出席停止が全校の1割を超える日もあった。さわやか相談室が効果的に運用され教育相談がさらに機能するよう改善していく。	A	「いじめがないわけがない」という校長の考えのもと、早期発見・早期解決ができている。今後も誰もが相談しやすい環境を整え、いじめやトラブルを適切に解決できるよう努力を継続してほしい。不登校を少しでも改善できるよう、相談体制をさらに充実させてほしい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	昨年の本評価3.48から今年は3.19と−0.29。 生徒アンケートの「規則を守っている」が3.81と高い評価が出ている。生徒は学校教育目標を意識し、規律意識を高く持ち学校生活を送っている。 教師の言葉遣いについて、「自ら手本となって」の部分をより強く意識して教育活動に当たらなければならない。	B	規則を守ることは意識が高く徹底できている。引き続き生徒と教師の信頼関係を築き、「自ら手本となって」を常に意識し、かける言葉には十分な配慮を持って指導してもらいたい。子どもの状況を受け入れ、認め、何でも話しやすい環境をつくれるよう期待する。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質　問　項　目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	昨年の本評価3.77から今年は3.51と−0.26。 埼玉県や本校の体力の課題を意識しながら、規律正しく体育授業を実施している。昼休みの校庭遊びが非常に活発である。部活動に意欲的に取り組み、県、関東、全国へと駒を進めている。	A	部活動の取組、体力向上の工夫、生涯スポーツへのつながりなど、授業、休み時間、部活それぞれが目的意識を持って展開できている。好成績の部がある一方、すべての部がよりよい活動ができるように努力と工夫をお願いしたい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	昨年の本評価3.77から今年は3.76と−0.01。 給食だよりの活用、地産地消、食品ロス減少、地方食材の無償提供等の取組を年間を通して実施した。給食試食会は2年連続で中止となった。給食を完食する意識が全学年で高く、引き続き喫食率が非常に高い。	A	三中の喫食率が非常に高く、日によって100%となるなど取組が成果を上げている。地産地消、食品ロス減少の取組は生徒が「食育インフォメーション」として放送するなど高い意識で推進されている。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質　問　項　目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	昨年の本評価3.35から今年は3.35と同値。 学校行事や学校公開は一度も保護者・地域の皆様を入れての開催ができなかったが、学校ホームページへの動画掲載の頻度は高く、生徒の活躍を不十分ながらも常時発信することができた。今後も三中校区ふれあい連絡協議会を中心に町内会、学区内小学校、高校との連携を工夫し、地域の中心としての機能を維持していきたい。	B	コロナ禍で制限がある中、工夫して生徒の活躍を発信できている。すべての要望を具現化することは難しいが、今後とも三中校区の中心として連携を大切にし、情報発信に努めてほしい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	昨年の本評価3.77から今年は3.73(−0.04)と、高い評価を維持している。 学校だより、学年通信、学級通信を各担任ともタイムリーに発行し教育活動の周知に努めている。コロナ禍で保護者の来校が制限されている中でも、学校ホームページの更新はほぼ毎日で、閲覧数で常時トップ3を維持している。	A	「学校ブログ」で生徒の活動を数多くアップしており、保護者だけでなく地域としても学校の様子がよくわかり楽しく拝見し、地域も元気になる。学校からの情報は内容豊かで、子どもの成長がよくわかり、毎回待ち望まれている。多くのエネルギーが必要だとは思うが是非継続してほしい。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	昨年の本評価3.24から今年は3.41と+0.17上昇した。学校応援団活動は依然として制限されているが、特にPTAボランティア委員会が緑化、バザー、行事手伝いなどの活動を感染症対策を工夫しながらできる限り進めることができた。	A	難しい現状の中、できる部分だけでも実施でき評価できる。地域のイベントは高齢者が携わる場面が多く、従来とは違う形での参加・ふれあい方を模索していく。手探りで良いから、新たな視点で様々な活動を進めてほしい。